

三郷市資料 2022.11.17

# ICFの理解と活用

一般社団法人TMG本部

渡邊 賢治

# ICF

## **国際生活機能分類** (2001.5.22 WHO総会にて採択)

International Classification of Functioning Disability and Health

「障害」を人が「生きる」こと全体の中で位置づけて、  
「生きることの困難」として理解する立場

# ICF

**国際生活機能分類** (2001.5.22 WHO総会にて採択)

International Classification of **Functioning Disability** and **Health**

**生活機能** ・ **障害** ・ **健康**

# ～健康とは～

単に疾患・病弱が存在しないことだけでなく、  
身体的・精神的・社会的ウェルビーイングの状態にあること

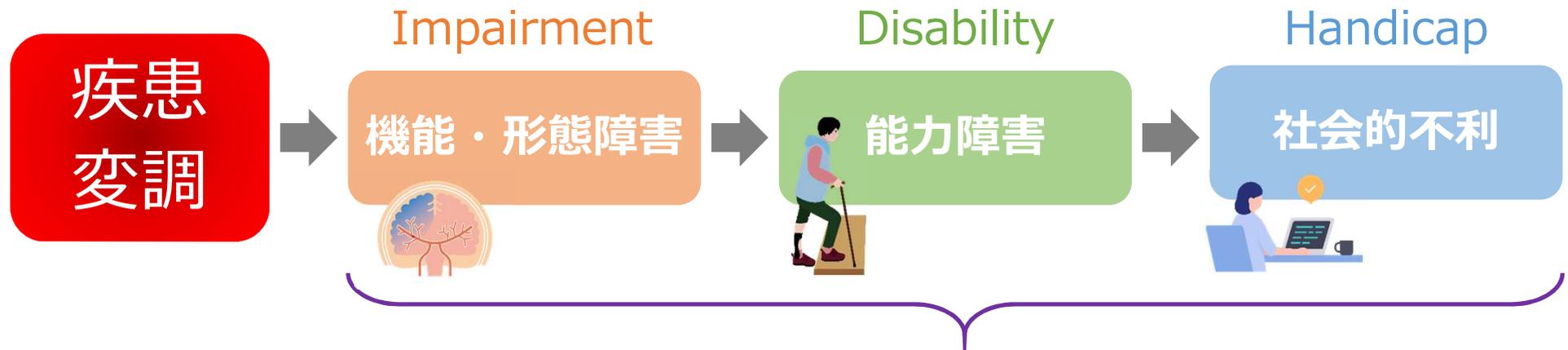
WHO憲章（1948年）

幸福で満たされた状態 → . . . . .自分らしい生活の状態

# ICIDHモデル（国際障害分類）

International Classification of **Impairments** **Disabilities** and **Handicaps**

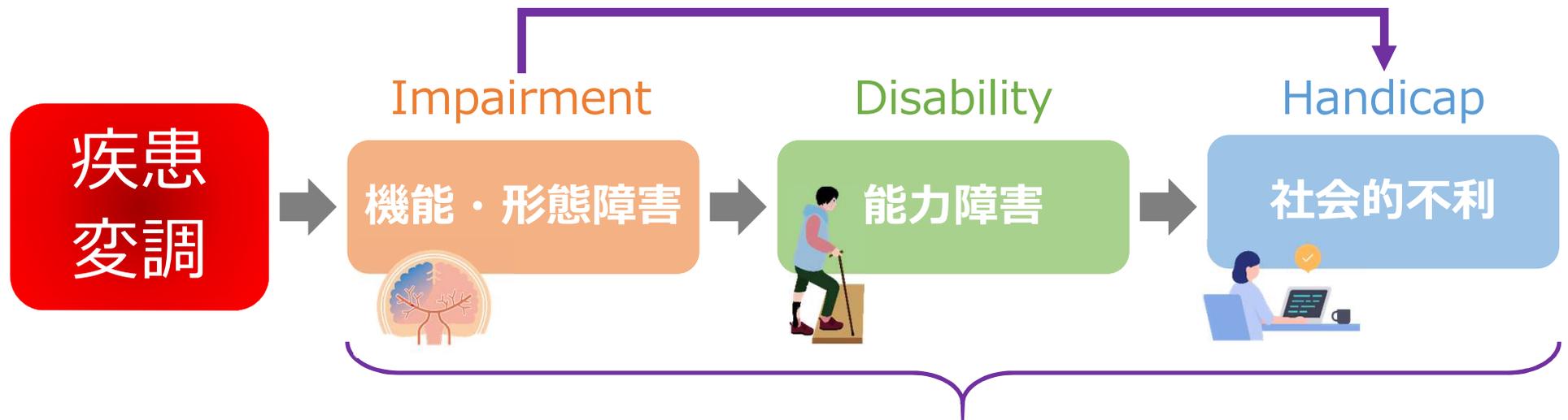
# ICIDHモデル (国際障害分類)



ICIDHモデルへの批判と誤解

- ✓ 運命論に対する批判
- ✓ 時間的順序の誤解 (基底還元論)

# ICIDHモデル (国際障害分類)



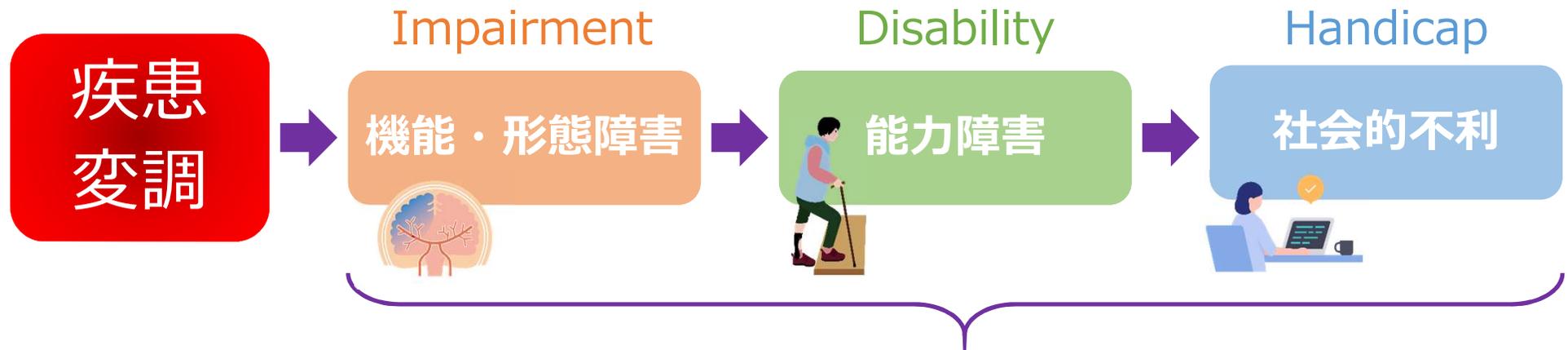
ICIDHモデルへの批判と誤解

✓ **運命論に対する批判**

✓ 時間的順序の誤解 (基底還元論)

障害

# ICIDHモデル (国際障害分類)



ICIDHモデルへの批判と誤解

- ✓ 運命論に対する批判
- ✓ 時間的順序の誤解 (基底還元論)

# ICF

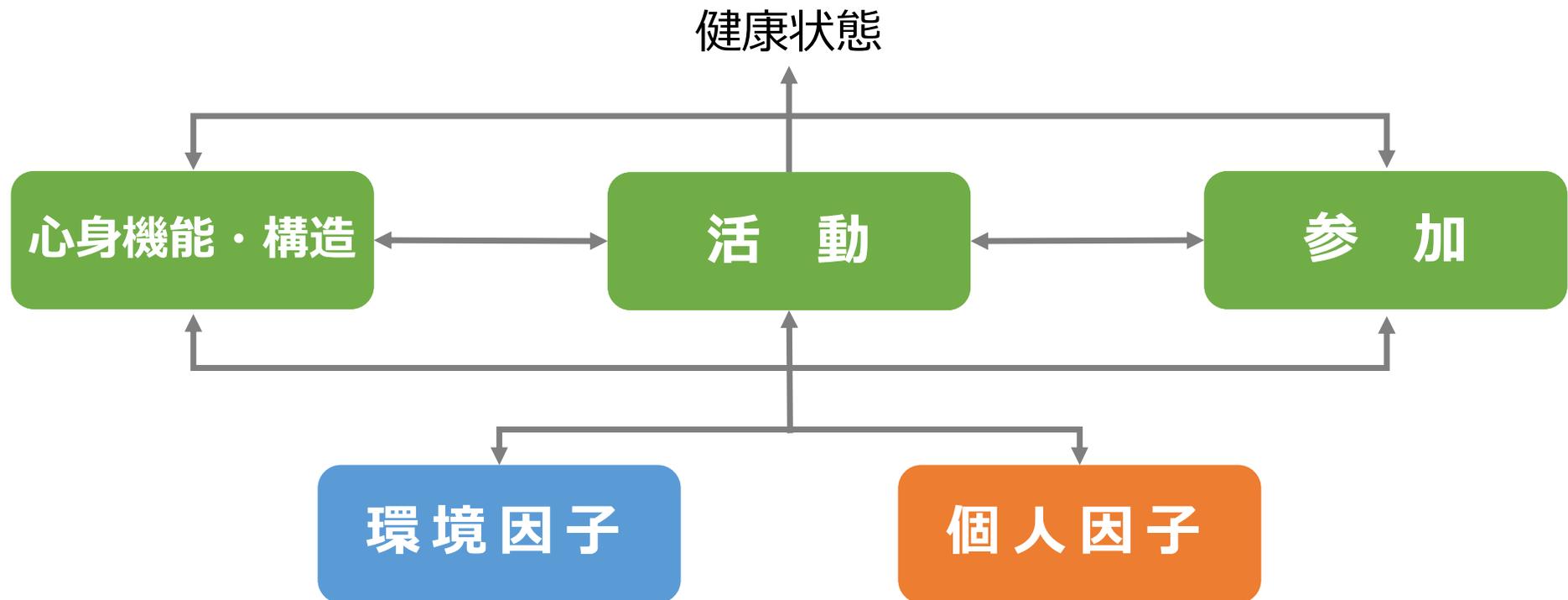
**国際生活機能分類** (2001.5.22 WHO総会にて採択)

International Classification of **Functioning** **Disability** and **Health**

**生活機能** ・ **障害** ・ **健康**

# ICFモデル

(国際生活機能分類)

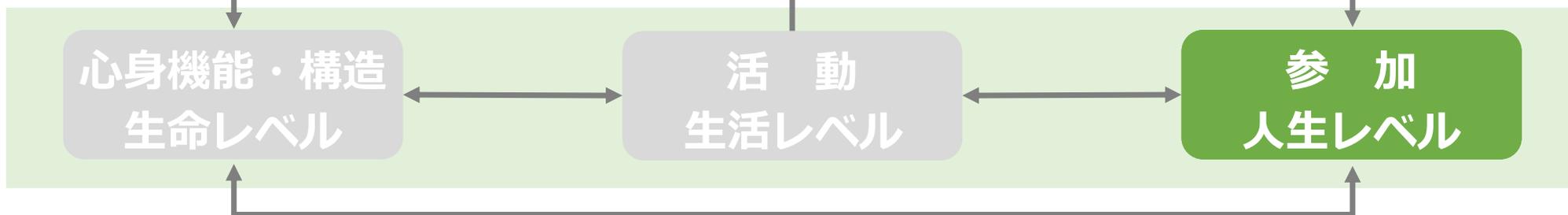


# ICFモデル (国際生活機能分類)

生活機能

人が生きること

健康状態



**参加** (人生レベル) とは・・・

「人生のさまざまな状況に関与し、そこでの役割を果たすこと」

過去・現在・未来

家庭・職場・地域

存在・参加

方法・手段

# ICFモデル (国際生活機能分類)

生活機能

人が生きること

健康状態



活動 (生活レベル) とは・・・

「生活上の目的をもち、一連の動作からなる、具体的な行為のこと」

ADL・IADL・趣味・スポーツ

できる活動・している活動

# ICFモデル

(国際生活機能分類)

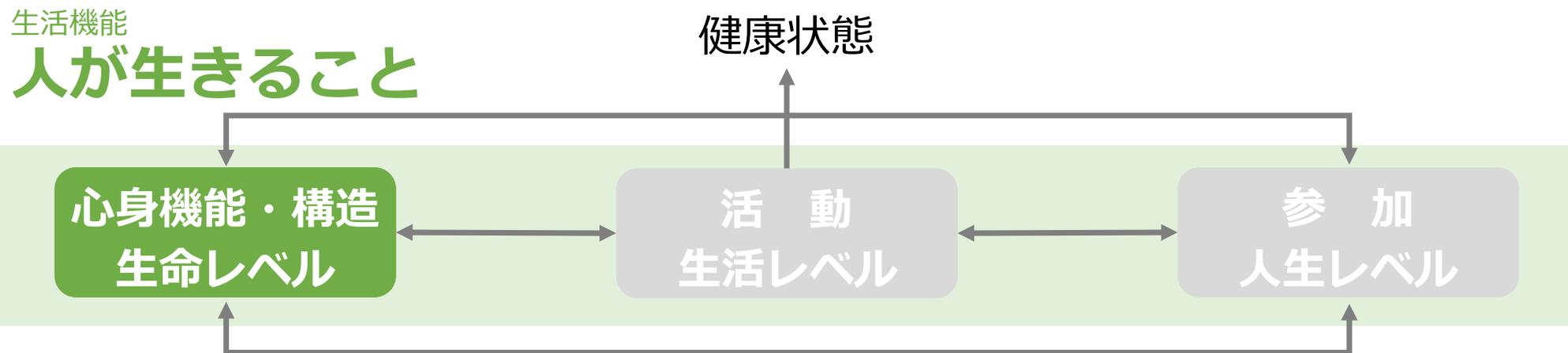
## している活動

現在の生活で実際に行っている「活動」 (生活行為)

## できる活動 (顕在的・潜在的)

1. 現在は機会や必要がないが、機会さえあれば「できる」能力のある「活動」
2. 専門家が技術・経験・知識を駆使し、補装具などを用いて働きかけ、本人の相当な努力をしてはじめて、訓練や評価の時に「できる」ことを確認することができるもの

# ICFモデル (国際生活機能分類)

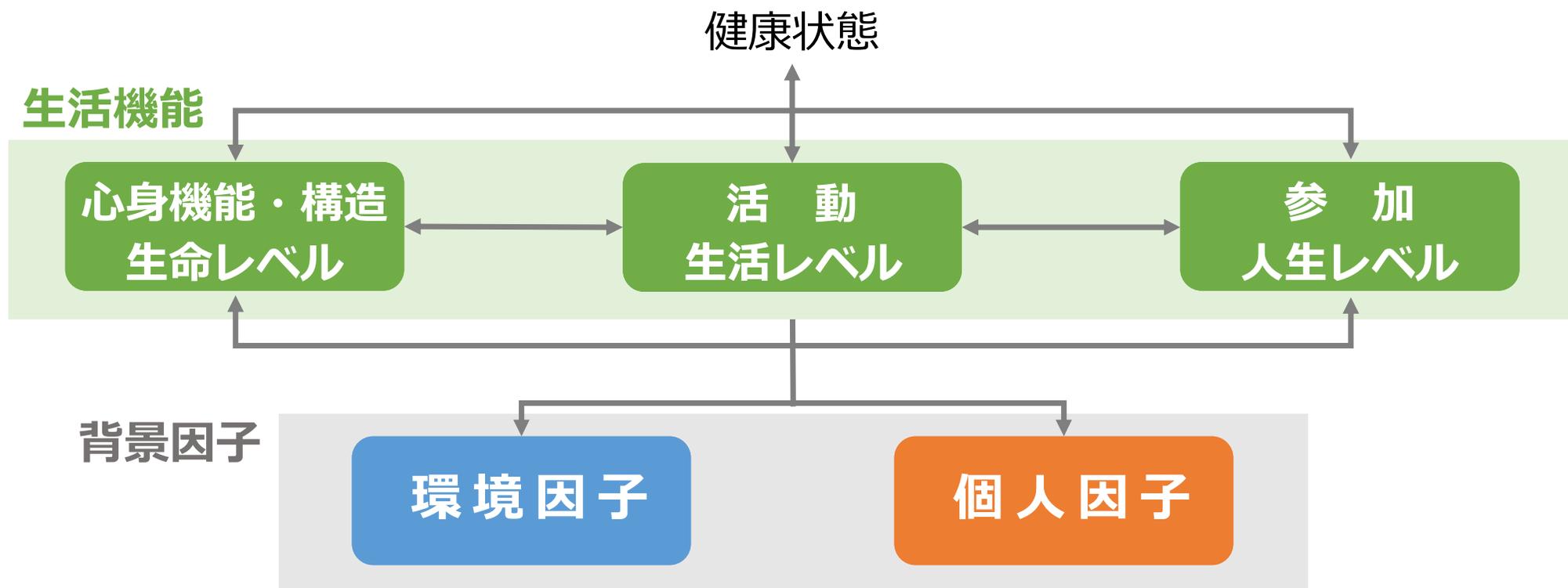


**心身機能・構造** (生命レベル) とは・・・

「手足の動き、精神の動きや視聴覚等、内臓の一部などの体の部分」

# ICFモデル

(国際生活機能分類)



# ICFモデル

(国際生活機能分類)

## ① 物的な環境因子

(建築・道路・交通機関、福祉用具・・・)

## ② 人的な環境因子

(家族・友人・近所の人、職場の人・・・)

## ③ 社会的な環境因子

(社会が障害者や高齢者をどうみるか・・・)

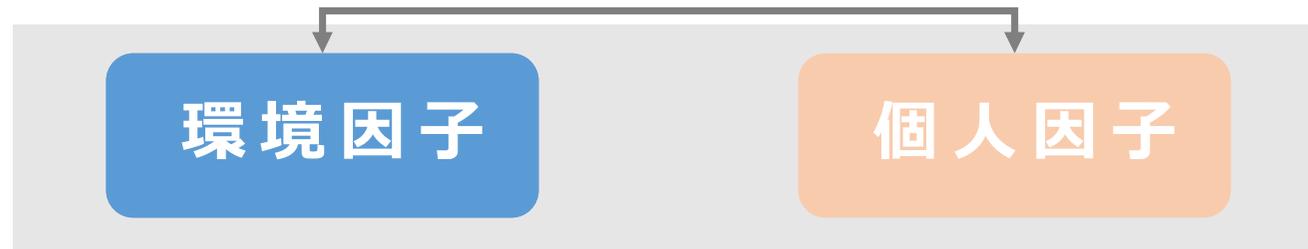
## ④ 制度的な環境因子

(サービス・政策・医療制度・介護制度・・・)

背景因子

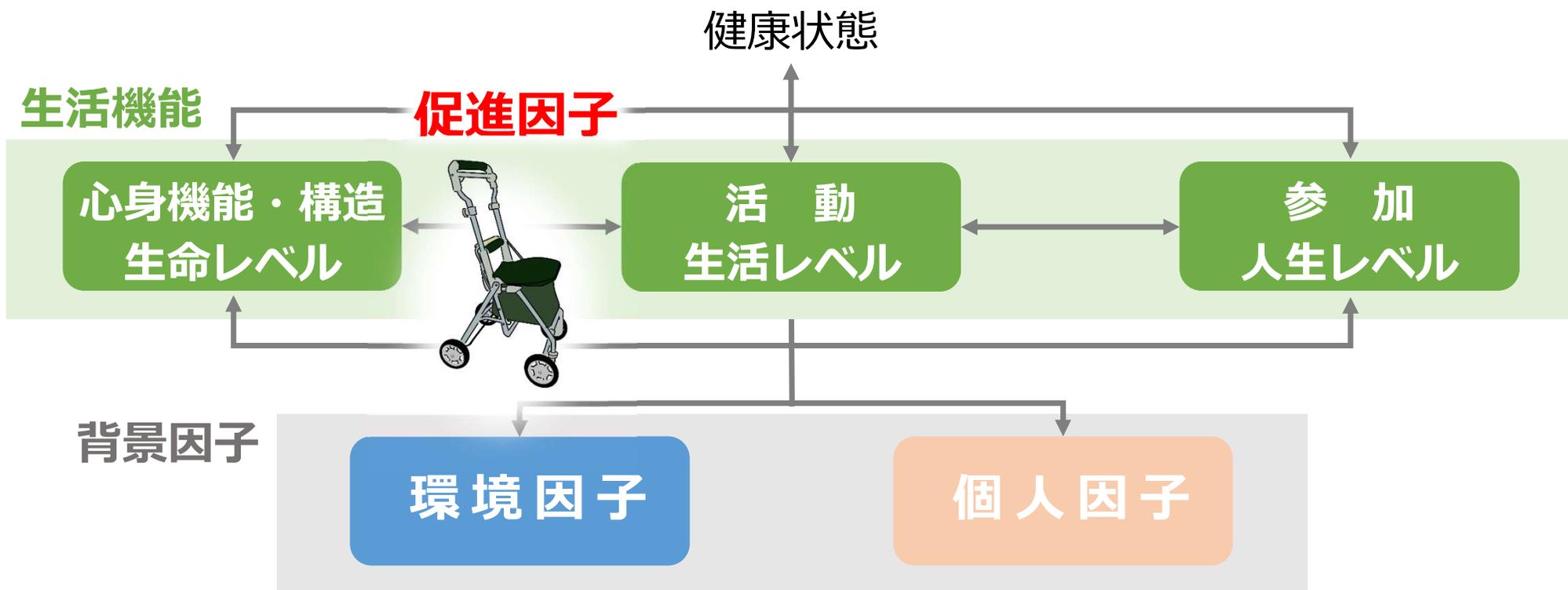
環境因子

個人因子



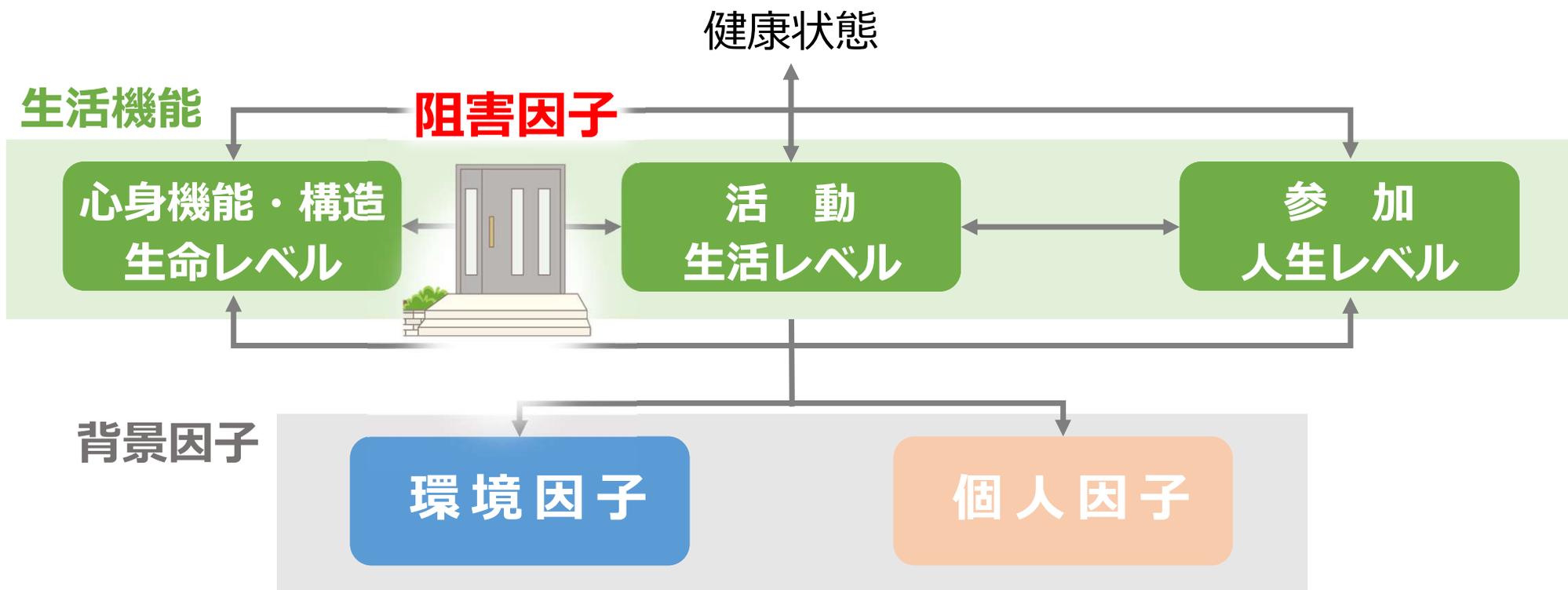
# ICFモデル

(国際生活機能分類)



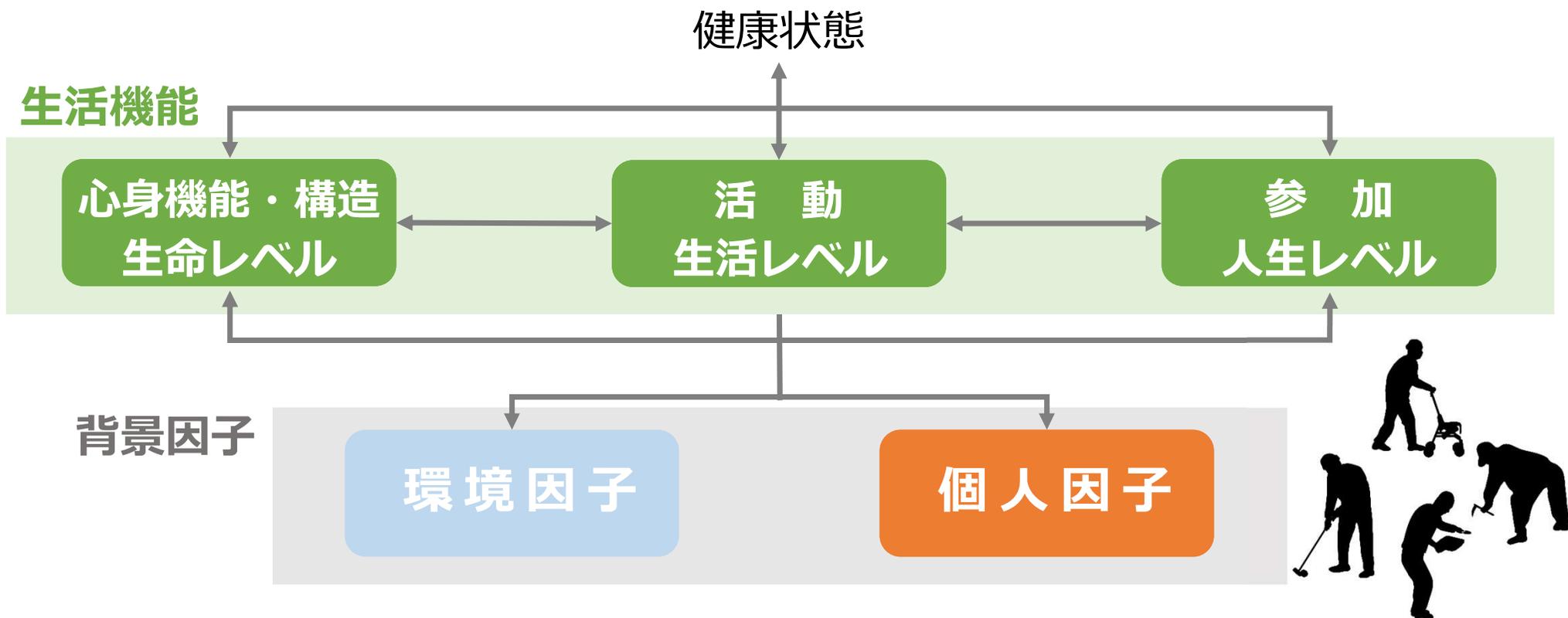
# ICFモデル

(国際生活機能分類)



# ICFモデル

(国際生活機能分類)



# ICIDHモデル (国際障害分類)

障害

マイナス



# ICFモデル (国際生活機能分類)

生活機能

プラス

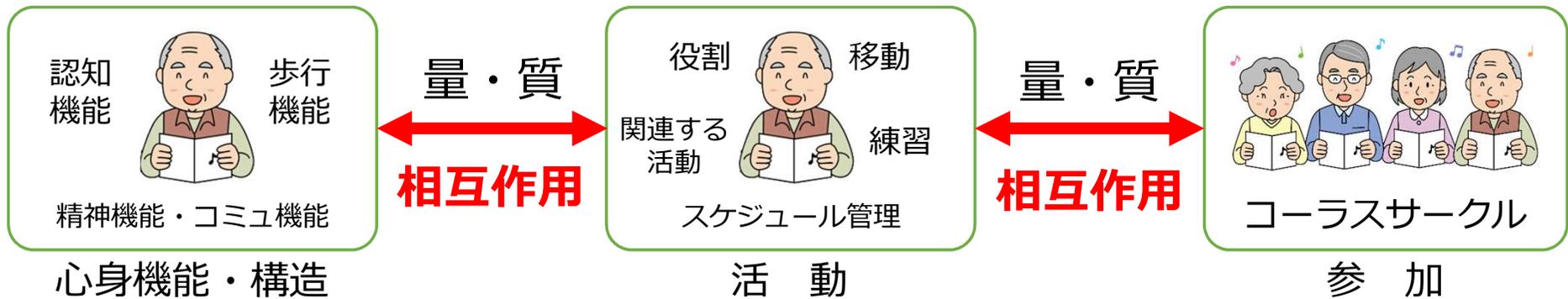


潜在機能・潜在能力の開発・増大

# ICFモデル (国際生活機能分類)

生活機能  
人が生きること

健康状態



# ICFモデル

(国際生活機能分類)

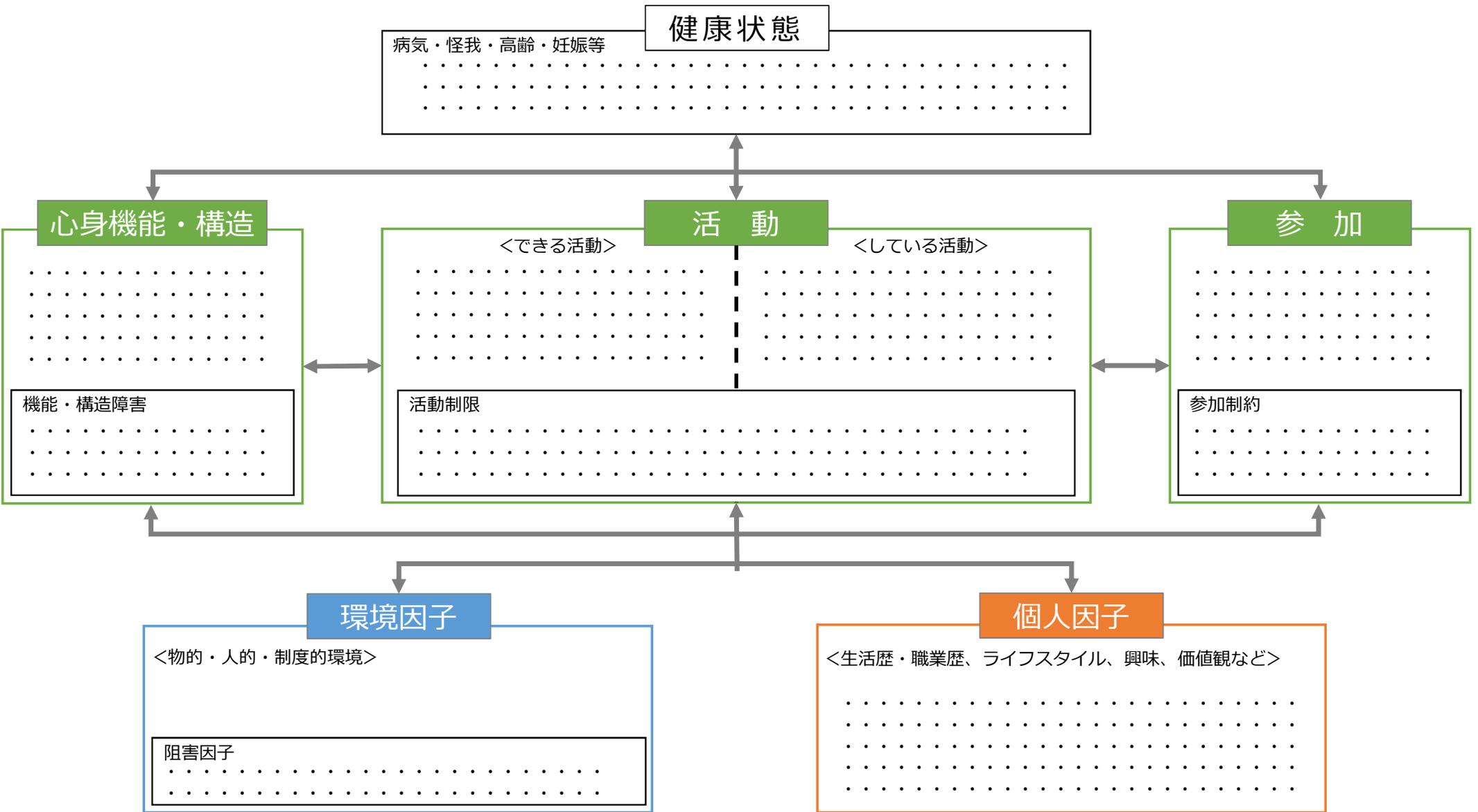
すべての要素が他のすべての要素と影響しあう

**相互依存性**

お互いに影響は与えあうがそれぞれのレベルで独自性がある

**相対的独立性**

参加は「目的」、活動は「手段」目的がはっきりしているからこそ手段の変更ができる



## — ICFシート記載例 健康状態 —

### 健康状態

1. 主病名：①高血圧（内服管理）  
②糖尿病（内服管理）
2. 既往歴：①H30 第一腰椎圧迫骨折

## － ICFシート記載例 参加 －

### 参 加

#### 1) 現在参加していること

- ・ 週に2回通所介護、友人との交流（月2回程度）

#### 2) 参加できそうなこと

- ・ 自分以外での家事（息子のために夕食を準備する）

#### 1) 参加制約

- ・ 立った状態での作業に不安がある→転倒に対する不安

# － ICFシート記載例 活動 －

## 活動

### 1) している活動

- ・ 自室の掃除、簡単な料理
- ・ 近所の公園までの散歩

### 2) できる活動

- ・ やり方次第では、洗濯等ができる

### 1) 活動制約

- ・ 洗濯機の使用する際に中腰になり、足に負担がかかる
- ・ 庭に干す際に両手がふさがり、転びそうになるため不安

# — ICFシート記載例 心身機能・構造 —

## 心身機能・構造

### 1) 心身機能

- ・ 視聴覚には問題がない（コミュニケーション良好）
- ・ 生活に必要な認知機能は保たれている
- ・ 握力は年齢平均レベル

### 1) 機能・構造障害

- ・ 血糖コントロール不良
- ・ 右股関節の痛み（動き始めや長距離歩行時）

# － ICFシート記載例 環境因子 －

## 環境因子

### 1) 促進因子 (物的・人的・社会的・制度的環境)

- ・長女が週1回訪問している
- ・屋内 (トイレ・浴室・玄関) に手すりがある
- ・デマンドタクシー制度を利用できる
- ・付き合いの長い友人が近所に複数人いる

### 1) 障害因子 (物的・人的・社会的・制度的環

- 境)
- ・玄関から公道までのアプローチに砂利や段差 (20cm3段) がある
  - ・友人が亡くなったり、病気になるなどしている

# － ICFシート記載例 個人因子 －

## 個人因子

年齢・性別・人種・性格・生活歴・価値観・ライフスタイル・職業・宗教・教育歴  
趣味・特技・コーピングストラテジー

- ・ 穏やかな性格
- ・ 35年間、経理の仕事をしていた
- ・ スナック菓子が大好き
- ・ スマートフォンの購入を検討している
- ・ ネットショッピングがしたい
- ・ 転倒に不安がある

# ICF演習

# —検討事例—

事例：76歳 女性 要介護2

## ご本人の望む生活

以前のようなコーラスグループやボランティア活動を再開したい

## ご家族の望む生活

今度転ばれると今の仕事にも影響が出る。転ばないで安全に生活してもらいたい（長男）

## 事例を提出した理由

本当はできることもあるが、やる気が起こらず引きこもりがちである方に対してどのように促すべきか

# —事例資料—

事例資料 1 利用者基本情報

事例資料 2 基本チェックリスト (改変版)

事例資料 3 興味関心チェックシート

# ICF演習

|           |                                  |      |     |
|-----------|----------------------------------|------|-----|
| 個人<br>ワーク | 事例資料の読み込み                        | : 7分 | 24分 |
|           | ICFシートへの記入 ①<br>健康・参加・活動・心身機能/構造 | : 5分 |     |
|           | ICFシートへの記入 ②<br>環境因子・個人因子        | : 5分 |     |
| ペア<br>ワーク | 意見交換                             | : 7分 |     |